

## 牧草の施肥

### 窒素の量について

最近、農業者との会話で、「今年の一歩草は力（牛乳）がない（出ない）」と聞くことがよくあります。

栄養価の高い牧草を収穫するために、栽培管理の基本である施肥（肥料をまくこと）について考えてみましょう。

肥料成分には窒素（チッソ）、リン酸、カリが含まれており、それぞれが牧草生育に役立っています。なかでも、窒素は重要な働きをします。

表1 牧草体内での作物養分のはたらき

成分名	はたらき	牧草を工場に例えると
チッソ	作物の体を作るタンパク質や葉緑体タンパク質を構成する成分	原料
リン	タンパク質合成に必要な核酸や生育に必要なエネルギーの構成成分	労働者
カリ	炭水化物の移動、タンパク質合成する制御機構にかかわる	運搬トラック

表2 チモシー1番草に必要な窒素施肥量(kg/10a)

マメ科率区分	マメ科率(重量比)	窒素	肥料A
1	30%以上	3.0	18
2	15~30%	4.0	27
3	5~15%	6.7	44
4	5%未満	10.7	74

「肥料A」とは窒素15%の肥料を使った散布量です。糞尿を散布すると窒素量はこれより減ります。

「北海道施肥ガイド」には牧草を十分収穫するために必要な窒素量が示されています。メ科牧草の割合で窒素量が変わるとのことです。

下右写真はマメ科率区分1、下左写真はマメ科率区分4です。「区分1」は更新して間もないほ場であり、栄養価の高いマメ科牧草が多く混ざっています。区分4のほ場は更新後年数が経過したほ場に多く見られます。



写真2 マメ科率区分4の牧草地



写真1 マメ科率区分1の牧草地

マメ科牧草では、生育に必要な窒素は共生する根粒菌が空中から取り込むので、イネ科牧草ほど必要ありません。逆に、窒素を多用すると、イネ科牧草の生育量は増加しますが、マメ科牧草では根粒菌活性が阻害され生育量は抑えられてしまいます。新しいほ場ほど肥料を多くま

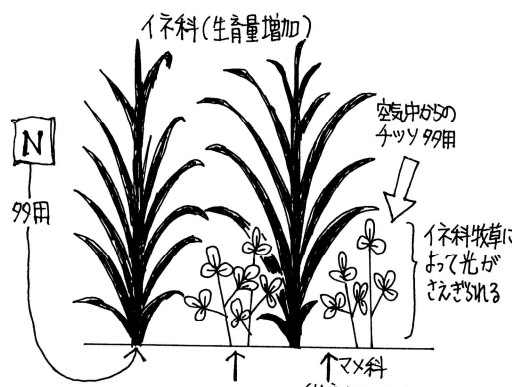


図1 混播草地における窒素の施用効果

てはいませんか。牧草が青くなる頃、ほ場へ行ってみて下さい。また、実際の肥料の量を決める時には、是非、普及センターにご相談下さい。

(平成二十六年 二月作成)